

2013/2/28
第 46 号
(25 年 2 月号)

しののめ



長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

「ICT活用のすすめ」

情報・産業教育部長 小林 晴夫

標高 817m の総合教育センター、まさに「春は名のみの風の寒さや」の季節です。今年は特に厳しい寒さを経験しただけに、この頃の陽光に春を強く感じます。

写真 5 枚があります。実物投影機を使い、写真をスクリーンに映し出し学習がスタートします。「これはあるものを 5 万倍に拡大した写真です。何かわかりますか?」、「……」。「つぎは、千倍の写真です。これはどうですか?」、「……」。と倍率を下げて 40 倍で「昆虫」との声が上がりました。そして 10 倍、「蜂かな」の声。「実は体長 2 cm のミツバチです。」生徒実習「電子顕微鏡の取り扱いと観察」の導入部分です。生徒の興味関心を高め、続いてデジタル教材（動画も含む）を用いてセンターに設置されている電子顕微鏡のしくみや操作方法を学習し、実習に入ります。1 台の電子顕微鏡の画像をテレビモニターで共有し、各自がパソコンで報告書を完成させる、という生徒実習風景です。



出欠簿とチョーク、教科書、問題集、プリントが私の授業持参 5 点セットでした。ガリ版が骨董品となり、青焼きコピーの恩恵も忘れかけている、OHP の存在は……。時代はすすみ教育の情報化はめざましく、情報活用力を全開にしなければとの自責の念です。

文科省「平成 23 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」の中で、「授業中に ICT を活用して指導する能力」は、全国平均が 65.1%、長野県は 60.2% で 38 位でした。そこで、まずは身近にある ICT 機器である実物投影機を使った授業実践を提案します。校内で日頃使っている先生が講師となり、ミニ研修からスタートし、だれもが、いつでも、どこでも使える環境にしてみませんか。

新年度、情報・産業教育部では、ICT の活用を促進するために、「教科指導における ICT の活用 ～わかりやすい授業づくりのための ICT 活用術～」と、「小学校における ICT 活用」「中学高校における ICT 活用」の講座を拡充しました。ご参加ください。

「されば今、かかる実なき学問はまず次にし、もつぱら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。譬^{たと}えば、いろは四十七文字を習い、手紙の文言、帳合いの仕方、算盤の稽古、天秤の取扱い等を心得、なおまた進んで学ぶべき箇条ははなはだ多し」福沢諭吉の『学問のすすめ』の一部です。さて、今の世であれば、ここに情報通信技術の活用が付け加えられるのでしょうか。

今月の「しののめ」には「平成 24 年度長野県総合教育センター研究発表会」特集を掲載しました。どうぞご覧ください。

「1 月は行く、2 月は逃げる、3 月は去る」とか。年度末のまとめ、新年度準備・・・とあわただしい時期ですが、「忙しい、忙しい」ばかりで「忄 (=心)」を「亡」くすことの無いように、周囲をゆっくり眺めるゆとりを持って新しい季節、新しい出会いを迎えたいですね。

〈特集〉平成 24 年度長野県総合教育センター研究発表会①

去る2月22日(金)、第1回長野県総合教育センター研究発表会が開催されました。県内外から、200名を超える先生方にご参加いただき、講演会・研究発表などで研鑽を深め、充実した1日となりました。

開会式、講演会

◇開会式

三村 保 総合教育センター所長 挨拶

本日、初めてセンターとしての研究発表会を開催できることをうれしく思う。学校の実態と国や県の施策を鑑みて調査研究してきた1年間の成果を発表する。意見交換をし、成果を各学校に持ち帰っていただきたい。



大日方 貞一 教学指導課義務教育指導係長 挨拶

「信州教育」の特質の一つとして、先生同士が学び合う研修が活発に行われることが挙げられる。この研究発表会にも200名の研修意欲あふれる先生方が集まった。第1回発表会が成功することを期待する。



◇講演会

「心を繋ぐコミュニケーション～「伝え合う力」～」

講師 NHK放送研修センター日本語センター 風見 雅章 氏

□アナウンサーの仕事の本質

「不特定多数の人に様々な情報を一度で伝えて分かってもらうこと」これは、教育でも言えることである。子どもたちに思考力・判断力・表現力を身に付けさせるために、まず先生が「よい授業（分かりやすい授業・問いかける授業）」を作らなければならない。

□「話す力」～情報の整理と組み立て～

子どもたちが学力を身に付けるために、先生の話す力が重要な役割を担う。整理された話は楽に聞ける。聞き手は話し手が話したとおりに聞けば、考えることができる。一方、未整理な話は、聞き手が整理しながら（苦労しながら）聞かなければならない。聞き手に余分な負担を強いることになる。

話し言葉は「音のことば」である。「先ず結論から」「センテンスは短く」を心がけ、子どもたちが思わず耳を傾けるようなガイダンスをしてほしい。

□「きく力」～聴いて訊き出す～3つの「きく」：「聞く(hear)」「聴く(listen)」「訊く(ask)」

○「聴く(listen)」：事実を正確に聴き取る、ことばの裏にあるものを聴く。

- ・今聴いている話の中心はどこなのかを考えながら聴く。
- ・表現されている事柄のみを聴くのではなく、ことばとして直接的に表現されていなくても、そこに込められた背景や、意味するところも聴き取る。

○「訊く(ask)」：聞き手が「問い」を発して疑問点や相手の真意、考え、思いなどを訊き出し、相手からより多くの発信を促すという極めて能動的な行為。

- ・事実を確かめる「問い」：いつ(when)/どこ(when)/だれ(who)/なに(what)
- ・事実を掘り下げる「問い」：なぜ(why)/どのように(how)
- ・さらに掘り下げる：相手の「答え」の中から次の「問い」を探す。

□ コミュニケーションは「聴き取って」「訊き出す」ということ。



〈参加者の感想〉

・教師の話す力は、子どもの学ぶ意欲を高め、聴く・訊く力は、子ども理解を深める、ということがよく分かりました。ことばを大事にして授業に取り組みたいです。

全体発表

全体発表①【教科教育部】

思考力・判断力・表現力等の評価にかかわる研究調査

～適切な「評価規準」と「評価方法」に基づく「見とどけ」のあり方～

発表者：臼井 学（教科教育部専門主事）

教科教育部では、児童生徒が思考・判断したことを表現する姿や、表現した記述内容等をどのように評価し、その後の指導に生かしていくのかをより明確にしていくための「見とどけ」のあり方について研究を進めてきた。そこで、児童生徒の学習場面と「思考力・判断力・表現力等」の評価の関係を右図のように整理し、各学習場面における評価のポイントを示した。



また各教科では、本研究の成果を今後の授業改善に生か

していただくために、研修講座や校内研修支援等で多く見られた学校現場の先生方の疑問や悩みに答える形で、授業実践に即して提案できるようにした。全体発表では生活科を例に挙げ、生活科における思考力・判断力・表現力等の評価のポイントを提案した。本研究の詳細及び各教科の提案については当センターHP等ご覧いただき、ご意見ご要望等お寄せいただきたい。

生活科の学習って、のびのび遊ばせていけばよいのでしょうか？
漠然としていて、何をどう評価したらいいのか。難しいです。



全体発表②【情報・産業教育部】

「情報モラル教育」教材の充実と活用法に関する研究

～すべての学校ですべての先生が～

発表者：西山 浩介（情報・産業教育部専門主事）

情報・産業教育部では、情報モラル指導者の育成および情報モラル教育をより推進させるために指導教材の作成を行い、当センターのホームページ内に「情報モラル・著作権 実践資料」として公開した。公開した指導教材は、授業および校内研修向けのスライド資料、および短時間で啓発指導が実施可能なトラブル事例とその対策資料である。利用した先生方からの要望を元に、さらに使いやすい教材の提供を目指して充実を図っている。また、公開した教材の活用事例について、当部の平沢一専門主事が「ネット依存」を題材にデモンストレーションを行った。授業の中で児童生徒に自己分析から予防法を考える一例を提案するとともに、実物投影機を用いた教材提示方法についても紹介した。



情報モラル指導は、インターネット上への書き込みがもたらす影響

を知り、相手の立場に立って行動できる人間性を育み、人を思いやる心やルールを守る指導を日常的に行うことが大切である。子どもたちを加害者にも被害者にもさせないために、公開した「情報モラル・著作権 実践資料」を学校生活のさまざまな場面で活用していただきたい。また、さらに使いやすい教材とするために、多くの要望を寄せていただきたい。

分科会発表【教科教育部】

第 1 分科会（ア）「思考力・判断力・表現力等の評価の実際（各教科）」

発表者：三輪 晋一（教科教育部主任指導主事）他

各教科に分かれて、思考力・判断力・表現力をどのようにとらえ評価していくのか、次の2つの視点から研究発表をした。

視点1 「思考力・判断力・表現力等」にかかわる評価規準の設定の在り方

視点2 具体的な学習場面や児童生徒の姿と「思考力・判断力・表現力等」とのかかわり

視点1では、評価規準を設定する上で大切なことや、授業で使える評価規準にするためのポイントを示した。

視点2では、児童生徒の学習状況を把握し、指導と評価を一体的に進めるためのポイントや、児童生徒の学習の結果を把握するためのポイントを示した。

その後、参会の先生方にも「研究員」のお一人となっただき、学校での実践における工夫点や課題をもとに、研究内容について協議した。研修講座や校内研修支援等で見られた先生方の悩みから研究内容を決めだしたことから、授業改善に生かせようだという声を多くいただいた。また、さらに研究を深める必要のある点についてのご指摘もいただいた。これらのご意見を生かしながら、今年度の研究のまとめを深めると共に、次年度の研究へつなげていきたいと考えている。



理科の研究発表の様子

第 2 分科会（エ）「『信州“Basic”』の効果的な活用のために」

発表者：有賀 大（教科教育部専門主事）

「授業がもっとよくなる3観点」を踏まえて学校での授業改善を図り、児童・生徒の学力向上に資するため、昨年度「信州“Basic”～授業づくりのポイント～」を作成した。各校では、職員会や研究会で読み合わせを行ったり、大切にしたい部分を教室や職員室等に掲示したりするなどして活用していただいている。そこで本年度は、この内容を生かし、さらに授業改善を進めるためのDVD資料「信州“Basic”～ビジュアル版～」を作成し、校内研修等で活用していただこうと考えた。これは、県内各小中学校及び特別支援学校の実践から、参考にしたい場面の写真を掲載して解説を加え、さらに「活用の手引」を添付して、研修で活用しやすくてできるよう配慮した。



発表では、第1章「教室環境編」、第2章「板書編」を視聴し、「活用の手引」に基づいて模擬

研修会を行った。参会の先生方からは、「大変参考になる。ぜひ、校内研修で活用したい。」「高等学校でも、参考になる内容が多い。」「DVDを見せるだけでなく、今日の発表のように、要所で止めながら演習を織り交ぜる形で研修を行うことが有効ではないか。」等のご意見をいただいた。

今後、各校でご活用いただき、有効な活用方法等について情報をお寄せいただければありがたい。

（教科教育部 TEL：0263-53-8803）



分科会発表【教職教育部】

第 3 分科会「総合教育センターにおける初任者研修の教科指導研修に係る調査研究」

発表者：宮坂 幸登（教職教育部専門主事）

◇発表の要旨

高等学校初任者研修講座の改善と初任者の授業改善のため、初任者自らおこなった授業に対する生徒アンケートの考察について、当部で分析をおこなった。

初任者の考察から、板書の改善は喫緊の課題であることが分かった。板書に関する研修と情報共有は、研修の早い時期に設定する必要があると考えられる。

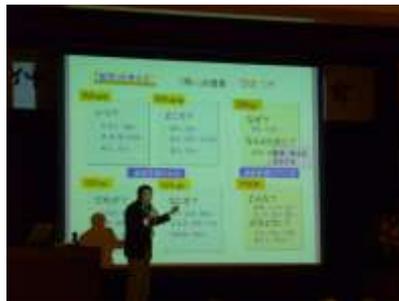
また、板書の改善など技術的なものは、研修によって改善が見られたが、生徒とのコミュニケーションが必要となる説明や学習進度の調整等は、扱う教材や単元、初任者個人の技量等で差が開きやすいことも分かった。校内支援の充実や OJT などで、研修後の見とどけを丁寧に行う必要があると考えられる。



◇協議の内容

- 生徒と教師、生徒と教材の関わり方の視点に立った授業づくりの視点が良い。中学校の授業参観は有意義と感じた。幼保・小、小・中、中・高等の、校種間連携の重要性が増していることを感じる。
- 初任者自身の主観的な印象ではなく、生徒からの評価を用いて授業を客観視し、改善に生かしている点が良い。今後は、与えられた課題でなく、初任者自身の取組として自発的に実施できると良い。
- 「学び直し」の授業が高校で行われているように、十分な学力がつかないまま進学していく生徒がいる。これからは、高校でも、楽しく分かる授業が益々必要とされていくのではないか。初任者が今後も自身の課題を持ち続け、先輩教師から学び、同僚と学び合う気風を培ってほしい。

各会場の様子(講演会・分科会など)



分科会発表【生徒指導・特別支援教育部】

研究テーマ：児童生徒一人ひとりを大切にする学校づくり」をサポートするために
～生徒指導・特別支援教育の視点で開発したツールの提案～

第 1 分科会

(1) すべての子どもが学びやすい環境づくりを目指して

～子ども理解に基づく「授業のユニバーサルデザイン化」振り返りシートの活用～

発表者：山下雅史(生徒指導・特別支援教育部専門主事)

◇発表の要旨

環境を整えることにより持てる力が十分に発揮できるようになる。子どもとの関係づくりを大切に
し、子ども理解に基づく「授業のユニバーサルデザイン化」の視点を取り入れた振り返りシートの活
用方法について提案した。

◇協議の内容

- ・シートや解説編をHPで公開してほしい。(→ 公開に向けて準備・検討中です。)
- ・例えば、「どのような授業のルールがあるとよいのか」「注意の促し方の例」など、さらに具体的
な提案をしてほしい。

(2) 通常の学級における読み書きの苦手な子の理解と支援を目指して

～小学校 1 学年における読み書き状況把握ツールの作成と試用～

発表者：堀内澄恵(生徒指導・特別支援教育部専門主事)

◇発表の要旨

読み書きの未習熟は、その後の学習の困難さにつながるため早期対応が必要になる。小学校 1 学年
のひらがなの読み書き状況を把握し、その状況に応じた支援にスムーズにつなげていくためのツール
を紹介した。

◇協議の内容

- ・「弓」を正しい書き順で書けない子はカタカナの「コ」も同様に一筆書きのように書き、カタカナ
の習得まで遡らなければならないことを実感した。このツールにより早期支援につながると感じた。
- ・中学でも読み書きは課題である。中学用のツールも必要だと感じ、自分で作らなければと思った。

第 2 分科会

(1) 子どもとの関係づくりを大切にするために

～「関係づくり」振り返りシートの活用～

発表者：宮田恭子(生徒指導・特別支援教育部専門主事)

◇発表の要旨

教師が児童生徒と良好な人間関係・信頼関係を築くことにより、児童生徒は安心できる環境の中で
持てる力を十分に発揮したり、困難を乗り越えたりできるようになる。関係づくりを意識化し、視点
の広がりにつながる振り返りシートの活用方法について提案した。

◇協議の内容

- ・子どもと子どもをつなぐという視点も大切にしたいと感じている。
(→ 各学校でさらに独自の改善・改良を加えて活用してほしい。)
- ・日常の振り返りに活用したい。教職員同士の関係づくりも大切にしたいと感じた。

(2) 子どもの SOS を「見逃さない」ために

～「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した「よりよい人間関係」の構築～

発表者：伊藤卓也(生徒指導・特別支援教育部専門主事)

◇発表の要旨

「いじめ」「不登校」に限らず、生徒指導上の諸課題は、早期発見・早期対応が課題解決のポイント
になる。児童生徒の実態把握や複数相談窓口の確保、児童生徒とのよりよい人間関係の構築につな
がる「アンケート」と「5分間ショート面接」の効果的な活用方法を提案した。

◇協議の内容

- ・Q-U との関連について教えてほしい。
(→ Q-U は正確な使用・活用が前提となる。今回の提案は、自分で分析し児童生徒が発した微妙な
部分の捉えを大切にしたいというものです。)

児童生徒一人ひとりを大切にする学校づくり

振り返り(意識化)

- ◆授業のユニバーサルデザイン化
- ◆関係づくり

早期発見

- ◆「読み書き状況把握ツール」
- ◆「アンケート」と「5分間ショート面接」

生徒指導・特別支援教育の視点

児童生徒理解 関係づくり

校内研修
の充実



分科会発表【情報・産業教育部】(1)

第1分科会「産業教育長期研修」

産業教育長期研修は、職業に関わる専門科目を担当する教員を対象とし、担当教科・科目に関する指導内容を系統的かつ計画的に学ぶ研修であり、年間30日の研修である。

◇「射出成形技術の課題研究での活用について」

新田 善明（岡谷工業高等学校）

射出成形加工は、主にプラスチック製品を製造する加工法である。それを工業高校における「課題研究」のテーマとして研究した。

センターの機器を活用し、プラスチック加工や金型についての概要、金型の製作など一連の流れが学習できる教材を作成し、年間学習指導計画を立案した。



◇「プログラミング学習としての Java 言語の研究と教育利用」

楯 和弘（穂高商業高等学校）

新学習指導要領の教科「商業」における科目「プログラミング」の学習に「オブジェクト指向型言語」が新たに加わった。そこで、携帯端末のプログラミング等にも活用されている「Java」について指導内容や指導方法の研究を行い、補助教材を作成した。



第2分科会「産業教育教材開発研究」

◇「新科目『農業と環境』における地域資源を活用した教材開発」

～地域の水環境マップの作成～

柳澤 瑞樹（須坂園芸高等学校） 山崎 健悟（更級農業高等学校）
五味 英彦（丸子修学館高等学校） 新井 理宏（下伊那農業高等学校）
本山 義治（南安曇農業高等学校）

新科目「農業と環境」について、地域の環境資源を生かし「環境資源マップ」を通して実践的な授業展開例を研究した。

マップの作成には、塩尻東山麓地区での水生生物、植物、水質などを環境調査し、授業で取り扱えるよう調査記録のデータ化、GPSユニットを使用した測位データの撮影画像へのマッチングなど、生徒にとって興味関心を高めることのできる教材を作成した。



◇「家庭科教育における ICT 活用の提案」

①デジタルメニューカードの開発と活用

中宮由紀子（屋代南高等学校）
石坂 寿子（丸子修学館高等学校）
犬飼 健一（白馬高等学校）

②アパレル CAD を用いた教材の研究

池森貴代子（上田千曲高等学校）
棚田 美穂（松川高等学校）

調理実習に関する「デジタルメニュー」と被服に関する「アパレルCAD」の二つのテーマを設定し教材を作成した。

「デジタルメニュー」では調理実習メニューを写真でデータベース化し、家庭科食物調理技能検定1・2級において出題される献立作成課題の指導に活用し、生徒がイメージを持って実習に臨むことができる教材となった。また、「アパレルCAD」では、「お手玉」「人形用ワンピース」を製図し、それを授業で活用し効果を検証した。また、作成した教材を共有し、各校で活用するためのシステムを構築した。



分科会発表【情報・産業教育部】(2)

第3分科会「産業教育教材開発研究」

◇「工業技術教材研究」～明日の日本をささえるスペシャリストの育成を目指して～

小西 雅彦（上田千曲高等学校） 佐藤 仁（松本工業高等学校）
飯島 健二（箕輪進修高等学校） 林 厚志（駒ヶ根工業高等学校）
湯本 政徳（池田工業高等学校）

産業社会では、退職者の増加による「技術の伝承」が問題視されているが工業高校も同様である。そこで、基礎的な技術・技術をよりわかりやすく学習できるようにICT機器を活用し「視覚化」することで、教職員・生徒に有効な教材を作成した。本年度は機械系の内容である「手仕上げ作業」について取り上げた。



「手仕上げ作業」は、基本作業において技能的な部分が大半を占めており、文字や言葉だけでは伝えにくい部分がある。これを改善するために作業内容・方法を映像化し、項目ごとにまとめパソコンやタブレットPCなどを用いて授業で確認したり、個人学習でも活用できる教材となっている。

◇「教科『商業』における情報モラルとセキュリティ」

～ビジネスの視点からの学習内容と指導法～

阿部佳代子（須坂商業高等学校） 河野 繁（小諸商業高等学校）
有賀 浩（飯田長姫高等学校） 国松 秋穂（諏訪実業高等学校）
中澤 深二（蘇南高等学校）

高度情報化社会におけるIT技術の進歩やインターネット・スマートフォンの普及に伴い、学校教育において情報モラルやセキュリティの知識や技術を身につけさせなければならない。教科「商業」では、従来の消費者視点の内容を踏まえ、職業人としての情報モラルやセキュリティのとらえ方が必要とされている。そこで、教科「商業」での指導の在り方や、効果的に授業を展開するために必要な教材の開発を行った。本年度は科目「情報処理」における各単元別のワークシートとその解答解説、さらに具体的な事例も取り入れた教材を作成した。



○ このたび第1回長野県総合教育センター研究発表会開催に際し、大変多くの皆様からの協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

○ また、当日参加された皆様にはアンケートにご協力いただき、多くの貴重なご意見ご感想を頂戴いたしました。次年度以降、より良い発表会となりますよう所員一同努力してまいります。



—— 研修講座を振り返って ——

教職教育部が1月～2月に実施した研修講座から振り返ります

◇高校初任者研修「課題研究研修」

1月29日に本年度最後の高校初任者研修となる「課題研究研修」が実施されました。開講式では、当センター青木正幸参事より、同期の仲間との絆を大切にしながら、今後も自己研鑽に努めるよう挨拶がありました。その後9つのグループに分かれて教科指導法に関する互いの研修の成果を発表し合い、また2年目に向けて各自の課題についての研究協議を行って、初任者研修のまとめとしました。

閉講式は、大井教職教育部長の挨拶に続き、教学指導課北澤指導主事による研修の講評、研修担当専門主事よりのエールで締めくくりました。以下に研修を終えた初任者の感想を紹介します。

○1年にわたり考え、学び、工夫した自分なりの精一杯の実践活動をペーパーにまとめる中で整理でき、また課題も明確化できた。

○初任研に来るたびに「明日も頑張ろう」と思えて、あらゆる面で助けられていました。終わってしまうのが残念ですが、これまでの研修を思い出しながら、これから頑張っていきたいと思います。



写真：班ごとの研究協議の様子

◇10年経験者研修「教職研修Ⅲ」

2月15日に本年度最後の高校10年経験者研修となる「教職研修Ⅲ」が実施されました。各学校の中堅としての活躍が期待される受講者に対して当センター三村保所長より、今までと違った目で業務を観て管理職になったつもりで業務にあたって欲しいと激励の講話がありました。東京女学館大学准教授黒川雅子先生からは、なぜ10年経験者研修が実施されることになったか、なぜミドルリーダーとして期待されているのかという説明、これからの教員生活において意識すべきことについて講義がありました。午後は、グループごとに1年間の研修報告を行い、仲間の成長に刺激を受けながら、一人一人が今後の教員生活への課題を明確にしていきました。

<受講者の感想より>

○教員の良さ悪さを広い視野で認識した。○学校組織のあり方について考え

させられた。○教員は生徒にとって身近な就業人であるので良い影響を与えられるように実践したい。

○指導に対する根拠をきちんと説明できるようにしていきたい。○ミドルリーダーを目指し管理職になったつもりで物事を処理する意識で職務にあたりたい。○初任の時に比べみんなスキルアップしていた。



三村所長の講話



黒川講師の講義



グループ協議

お知らせ

平成25年度から初任者研修2年次研修が始まります

平成24年度に採用された初任者研修対象者の2年次研修が始まります。

◇義務初任者研修「2年次研修」 校外研修4日の内、総合教育センターでの研修は次のとおりです。

○「2年次全体研修」[5月21日(火)]

実施案内(分散会ワークショップ等)を4月に学校へ発送します。申込みは不要です。

○「総合教育センター・体育センター選択研修」 1日

2年次は、総合教育センター又は体育センターから1日を選択して研修します。

詳細については、平成25年度研修講座案内でお知らせします。ご確認の上、申込んでください。

◇高校初任者研修「2年次研修」 総合教育センターにおいて1日の研修講座を受講します。

○「課題研究研修A」[7月30日(火)], 「課題研究研修B」[8月1日(木)]のどちらか1日を指定します。申込みは不要です。